



健康科学センターの中田技師によるフレイルに関する基礎的な講義を受ける

○オンライン会議の参加の仕方「ZOOM」  
4月13日、オンライン参加と会場参加のハイブリット方式で「オンライン会議の参加の仕方コース」を開催しました。6市町公衛協、

2TEAMから14人が参加しました。昨年度の「オンライン会議の開き方」コースとは趣向を変え、オンライン会議に対する敷居を下げ、コロナ禍での活動に活かしてもらいました。



会場の受講生だけでなく、オンライン(ZOOM)で受講された方も含めた、ハイブリッド方式で研修を行った

○フレイル予防「ZOOM」  
4月26日・27日、「フレイル予防コース」を開催しました。フレイルに関する理解を深め、公衛協活動にフレイル予防の視点を持つことを目的に開催し、両日で10市町公衛協22人が参加しました。主な内容は「フレイルとは何か」を学んだ後、「食と口腔」運動「社会参加」のテーマで掘り下げ、公衛協で実

たので、機会があつたらZOOMを使ってみる」などの声がきかれ、withコロナに向け、有意義な研修となりました。

○防災・減災コース(共助井戸編)  
5月26日・27日、「防災・減災コース(共助井戸編)」を開催し、9

参加者からは、「フレイル」という言葉を最近耳にして、詳しく知りたかった。今日の研修は勉強になったなど、大変好評でした。

# 組織づくり・人材育成に専門研修順次開催

環保協

## 市販消毒液の使い方を学ぼう 正しい濃度で利用を

平成30年7月豪雨のように、床上浸水を伴う大規模な水害が発生した後で必要なことは消毒です。本来は、保健所で対応しますが、大規模災害の場合は、行政支援も消毒業者の手配も順番待ちとなり、なかなか支援が届かないという状況になります。何もできない状況が続くと、カビや菌の増殖、衛生害虫の発生などが心配されます。そこで環保協は、市販されている消毒薬の知識を持ち、自分たちで消毒を行うことを、災害発生時の公衛協の役割の一つとして提案しています。

消毒の前には、洗浄して乾燥させることが必須です。また、安全に消毒を行うために、薬の特性や適切な濃度への希釀、事故防止のため小分けや配布をしないなどの知識を持つことが重要です。

最も身近な消毒薬が「アルコール」です。購入してすぐ利用できる手軽さがあり、効果も折り紙つきです。ただし、費用がかかる、火気のある場所では使えないというデメリットがあります。

効果の面では「次亜塩素酸」が有効です。ハイターやブリーチなどの漂白剤は、約6%濃度の次

### 公衛協が取り組む 防災・減災 (2)

亜塩素酸です。薄めて利用するので、費用面では優れていますが、塩素系洗剤と混ぜると有毒ガスが発生する、アルミを腐食させるなどのデメリットがあります。

お勧めは「塩化ベンザルコニウム」です。聞き慣れない薬ですが、ドラッグストアで購入できます。逆性石鹼とも言われ、無色無臭で中性、ウイルスにも効果が期待できるので使い勝手がよく、薄めて使うので、費用面でも優れています。

このような情報を知っておくことで、家庭にあるものや身近に購入できる消毒薬を使って、公衆衛生を守ることができます。有事の備えとして、公衛協で取り組んでみませんか。

(地域活動支援センター)



研修で紹介した消毒薬。見た目や臭いなども確認する。

市町公衛協18人が参加しました。このテーマは、公衛協が掲げている災害時の5つの役割の中の1つで、有事の際の生活用水確保を目的に取り組みました。主な内容は、県内で取り組まれている共助井戸事業の事例紹介などの情報提供と、井戸水の採水方法について

実習を行いました。成30年7月豪雨では、当協会が「広島県との災害時の遊休井戸等の共助利用に係る水質検査に関する協定」に基

づき、共助井戸水の水質調査を実施しましたが、濁り水の検体や臭いのある容器の利用などにより、検査不適となる事例が多数あります。

現在、県内各地ではさまざまな共助井戸事業が行われています(情報紙「環境と健康」623号参照)。先進

事例を参考に、我が家に合った共助井戸の仕組みづくりと、その維持に取り組んでみませんか。



「料理カード」を使って、ゲーム感覚で塩分などの量を“見える化”する実習



受講者全員が採水実習を行い、いざという時に備える